# ART KISS LETTER

[アート・キッスレター]

FOR KUMAMOTO ART PEOPLE

Contemporary Art Museum,Kumamoto
熊本市現代美術館発行　http://www.camk.or.jp

vol.43

FREE

AUTUMN
[2009. 秋号]

## 「花・風景ーモネと現代日本のアーティストたち：大巻伸嗣、蜷川実花、名知聡子」展 開催中！

本展では、モネの最初の油彩画《ルエルの眺め》から晩年の《睡蓮》まで様式の変遷を辿る6点、大巻さんの熊本ゆかりの花による巨大インスタレーション、蜷川さんの新作《FLOWER ADDICT》シリーズによる煌びやかな写真空間、名知さんの新作4点を含む鮮やかな心象風景画を展示しています。

写真は、大巻さんがご自身の作品のなかで語っている、アーティスト・トークの場面です。この 13x21m の大規模な作品は、大巻さんと、ボランティアさんのべ50人で10日間かけて制作しました。大巻さんはもちろん、ボランティアの皆さんも作品の成長をわが子のように温かく忍耐強く見守り、なかには完成を見て感極まる方も。肥後六花、九曜紋など熊本の花や文様をモチーフに、大巻さんが実際に熊本を訪れて感じた、豊かな自然を五行思想になぞらえた色彩で彩っています。

この作品は完成後、鑑賞者の皆さんに踏まれることで、かたちが崩れ、色が褪せていきます。時間と共に、皆さんの記憶を刻み、姿を変えていく様子もお楽しみください。会期途中には、大巻さんがいらして、再び花を咲かせるワーク・ショップも行いました。

モネと３名の現代作家、時代を超えたアートが共鳴する花と風景の世界を是非お楽しみください。(A.A)

museum information

# 熊本市現代美術館のさいきんの活動

## 井上雄彦 最後のマンガ展 重版〈熊本版〉連続講演会 第3回「武蔵・どうしてそんなに男前　肖像の変遷」　2009.5.9

島田美術館館長である島田真祐氏による講演会は、ちらしに掲載された「宮本武蔵と熊本」から改題され、「武蔵・どうしてそんなに男前？ー肖像の変遷」として講演されました。
講演題目変更の理由のひとつとして、「マンガの展覧会ですから、より一層ビジュアルにこだわったお話のほうが、井上さんの描いた武蔵しか知らない方々も、興味の幅が広がるかもしれません」、と前置きとしてお話くださいました。
講演会の内容としては、島田美術館蔵の《宮本武蔵肖像》が、五輪書の「水の巻」でのテキストによる描写に忠実なことや（額にはしわを寄せず、眉間はしわを寄せ、などの描写）、「武州伝来記」にある武蔵の髪型（総髪、つまり月代を剃っていない）というところからも、武蔵死後ある程度経った制作であっても、実在した武蔵にかなり近い描写である可能性が高い、という見解が紹介されました。
続いて、島田美術館館蔵品の浮世絵を参照しながら、江戸時代の娯楽としての歌舞伎に、勧善懲悪の仇打ち助っ人として宮本武蔵が登場し、その際には、いわゆる実在の宮本武蔵的な特徴は取り除かれ、典型的な美男子へと変身したこと（一方佐々木小次郎は悪人顔）が述べられました。
吉川英治にいたっては、新聞小説の挿絵において、ふたたび武蔵は総髪にもどるものの、整った顔として表現され、悪人顔へ変身していた小次郎は、改めて武蔵と変わらぬ整った顔立ちにふたたび変身し、井上さんの『バガボンド』に引き継がれているという展開でした。くわしくは当館発売の『井上雄彦　最後のマンガ展　重版〈熊本版〉報告書』をご参照ください。(H.T)

## 井上雄彦 最後のマンガ展 重版〈熊本版〉連続講演会 第4回「井上雄彦と『最後のマンガ展』を語る」　2009.5.16

詩人の伊藤比呂美さんは、熊本で深く愛されている詩人であり、井上雄彦さんとの対談集『漫画がはじまる』もひろく知られており、会場は即座に満員となりました。会場の建築構造上、安全に使用するために、どうしても収容人数に限界があり、限界数以降の来場希望者の皆さまには入場を御断りさせていただきました。申し訳ございませんでした。
講演は、伊藤さんの「漫画にはうらみつらみがあるんです」や、「漫画には止められなくなるアブナイ物質がはいっていると思うのです」などの名言が会場内の爆笑を誘いながら、長年のマンガ読みとしての、そして詩人としての鋭い視点から、『スラムダンク』や、『バガボンド』、そして本展が読み解かれていきました。
『漫画がはじまる』で披露された、「大好きです」の比較解釈や、「『スラムダンク』の沢北って、亂舞よね」など、キャラクターの役割の対比検討など、あざやかに軽やかに論が展開していきました。
質疑応答の時間においては、活発なディスカッションが展開され、連続講演会講演者である宮本大人さんも、お話される予定だった最新の見解を紹介されるなど、非常にエキサイティングな場となりました。
くわしくは当館発売の『井上雄彦　最後のマンガ展　重版〈熊本版〉報告書』をご参照ください。(H.T)

## 井上雄彦 最後のマンガ展 重版〈熊本版〉連続講演会 第5回「何のために人を斬るのか―『赤胴鈴之助』から『忍者武芸帳』、『バガボンド』まで―」　2009.5.23

北九州市立大学准教授である宮本大人さんは、戦前・戦中のマンガにおける表現を再検証しつつ、現代のマンガへと脈々とつながる系譜を研究する一方で、現代のマンガ家とのインタビューなどを通して、その活動や思想などをひろく紹介しつつ、明確に言語化するという活動をされているマンガ研究者です。
今回の講演内容も、その宮本さんの広い視野を感じさせるもので、時代劇マンガの歴史を紐解き、その変化と時代との関わりなどを紹介しつつ、井上さんの『バガボンド』へとどのようにつながっていくのかというのが大きな論の流れでした。
『赤胴鈴之助』、『忍者武芸帳』との『バガボンド』の近さと遠さについての考察は大変興味深いものでありました。内容としては難解なことをお話されていたのですが、わかりやすく親しみ深い話言葉のうえ、時々会場を爆笑させる発言がはさみこまれるので、ぐんぐんお話に引きつけられていく楽しみがありました。
また、後半は『バガボンド』での身体描写とその表現にふれ、宮本さんみずから木刀をふりつつ（剣道有段者！なのです）、井上さんが巻を重ねるごとに、身体の動きの描写をより古武術的に理にかなった表現へ変化させていったかについて論じました。
講演者みずから木刀をふるうというのは、当館開館してよりこのかた初めてのことで、「うーん、さすが井上展」と深く感銘を受けました。
くわしくは当館発売の『井上雄彦　最後のマンガ展　重版〈熊本版〉報告書』をご参照ください。(H.T)

## 命の花壇が夏の花に植えかえられました　2009.5.26

鮮やかな新緑が目に眩しい５月末日、熊本県立熊本養護学校農芸班の生徒さんと先生方による命の花壇の植え替え作業が行われました。
日差しの強い時間帯のため、日除けを立てて作業スタート。そんな暑さにも負けず、みなさん楽しそうに笑顔で苗を植えてくれました。今回植えられた花は５種類。マリーゴールド（ゴールド・オレンジ・ハーモニー）、サルビア、ベチュニア（むらさき・白・ピンク）、インパチェンス、メランポディウム（ミリオンゴールド）です。6月から９月まで、暑い夏を越えて色鮮やかな花々が美術館の玄関を彩ってくれます。
「花・風景 展の開催期間中には、アートになった花と花壇に育つ自然の花のコラボレーションを楽しんでくださいね。(S.Y)

## 井上雄彦 最後のマンガ展 重版〈熊本版〉連続講演会 第6回「図書館とマンガ」　2009.5.30

連続講演会、最終回の第６回として当館学芸員・司書の藏座江美が「図書館とマンガ」というタイトルで講演を行いました。
講演の前半は、県下の図書館に「マンガを所蔵していますか？」などのアンケートをとり、その実状について報告を行いました。
後半はワークショップ形式で、講演会の参加者でグループをつくり、ディスカッションをしながら、ワークシートに答えを書き込むという内容でした。
「図書館ではじめて読んだマンガは？」、「自分で初めて購入したマンガは？」などと、マンガと人生の関わりあい方をたずねることで、グループ内で会話が深まるきっかけを提供する質問から、「当館で次回開催する展覧会『花・風景』で紹介したいマンガを提案してください」などと、実際に企画展とそろえてマンガを開架・紹介する場を提供するところまで、課題は幅広いもので、初対面の者同士のグループディスカッションでも、和気あいあいと友好的な雰囲気で行われました。(H.T)

## 宮本武蔵の史跡をめぐるバスツアー 第2弾　2009.5.31

宮本武蔵の史跡をめぐるバスツアー、第２回目を開催しました。第１回目に引き続き、このツアーも展覧会はじまる前に、キャンセル待ちの状態になるほどの高いご期待を背負っての開催でしたが、皆さまの熱い想いも届いてか、素晴らしく穏やかなよい天候のもとのツアーとなりました。武蔵塚公園で、武蔵のお墓参りをしたのちに、立田自然公園でお昼休憩をとりつつ散策、さらに移動して、霊巌洞を訪問しましたが、そのうえの展望台から眺める景色の素晴らしいこと！雲仙岳がくっきりと見え、海がきらきらと輝いていました。島田美術館へ訪問し展覧会を鑑賞。島田館長のご講話もいただき、充実のバスツアーとなりました。(H.T)

## ミュージック・ウェーブNo.018／JiccA リズムタップ　2009.6.6

「井上雄彦 最後のマンガ展 重版［熊本版］」の期間中イベントとして、ダンスグループ JiccA によるリズムタップ公演を開催しました。リズムタップとは、タップダンスの中でも、ステップを中心においたダンスです。素早く軽やかなステップから紡ぎだされる、あふれんばかりの音、音、音。映画、「座頭市」のラストシーンで流れるゲタップや、映像やドラムとのセッションなど、アンコールの最後の最後まで、お客様の笑みと拍手に包まれたパフォーマンスでした。公演終了後、階段を駆け降りる足音が、まるでステップを踏むように軽やかに響くのでした。(M.O)

## 別府現代芸術フェスティバル2009　混浴温泉世界日帰りバスツアー　2009.6.13

別府の街を散策しながら、現代芸術を堪能するという話題のアート展「混浴温泉世界」に、桜井館長を団長に、20 名の市民の皆様と日帰りバスツアーに行ってきました。途中天候が心配されましたが、別府に着くころには願いが通じたのか、見事快晴に。
全員で九州駅弁ランキング第２位に輝いているおいしいお弁当「たみこの夢弁当」（個人的にはおまけに付けてもらった地元名物カレーパンをもう一度食べたい！誰か熊本でお店を出して！）を食べた後、各自街を散策し、お目当ての場所に行くのにスムーズな方もいれば、やっと辿りつかれた方もいらっしゃいました。ご年配の参加者からは、「現代美術よりも別府の街に興味があって参加したけれど、色々美術も面白いこともやっているんだね」などのご感想をいただきました。
最後に鉄輪地区で温泉に入りました。個人的には「入浴後にビールが欲しい」と思いましたが、なんとか我慢して帰路につきました。さすがにみなさん歩き疲れたのか、帰りの車中では熟睡されている方（私もその一人）もいらっしゃいました。翌日は筋肉痛になってらっしゃる方もいたのでは？でも、心地よい疲れではなかったでしょうか。(I.S)

## GⅢ　vol.63　今田淳子展　2009.6.20−8.2

熊本市出身ミラノ在住の今田淳子さんの展覧会を開催しました。帰国展としては 13 年ぶり、すべて日本初発表の作品と、当館での展示をめざして制作した最新作《いのち　LA VITA》とあわせて 9 点をＧⅢ会場とフリーゾーンをつかってご紹介しました。
ウレタンフォーム（綿）のなかにカラフルでかわいい形態（星、魚、花、モンスター）のテラコッタを挟み込み、縫い合わせ、大きな平面の作品をつくりあげています。親しみやすく、活き活きとした雰囲気を持つ作品群は、観客のみなさんの「さわりたい−！」という触覚的な興味もゆさぶる、非常に魅力的な空間をつくりだしました。
会期中の 7 月 20 日には、今田淳子さんに講師をおねがいしたワークショップを開催しました。今回は年齢制限を設けておりまして、対象者は、5 歳のおともだちとそのお母様を中心としたご家族でした。WS の内容は「パスタをつかってマスケラをつくろう！」でした。
今田さんがイタリアの幼稚園などで、こどもたちがパスタをつかった造形あそびをしているのを、日本のこどもたちにも紹介したいということで、多種多様なかたちのパスタをミラノのスーパーで買って、ＷＳ用の素材として持ってきてくれました。
参加者のみなさんも、小指のさきほどしかない花のかたちのパスタを並べたり、マスクライダーの顔をつくってみたり、星をいっぱい並べてみたり、それぞれ個性あふれるすてきな my マスケラをつくっていました。(H.T)
＊展覧会カタログ（300 円）を美術館総合受付にて発売中です。通販可（別途送料をいただきます）。

## ホームギャラリーのマンガコーナー、入れ替えました　2009.6.29

展覧会毎（約 2−3 か月毎）に入れ替えているホームギャラリーのマンガ。今回は「花・風景」展に合わせて、花の名前をタイトルにもつマンガや花の名前の登場人物が出てくるマンガなどが並んでいます。
また、今回の選書には、「井上雄彦 最後のマンガ展 東版（熊本版）」連続講座「図書館とマンガ」参加者の皆さんに一部ご協力いただきました。主人公が花の飾りをつけているから『日出処の天子』、夏休みに重なるのでアニメしかしらない子どもたちに原作をぜひ読んで欲しいという理由から『ドラゴンボール』などなど。参加者の皆さんとっておきのシリーズも配架しています。どうぞ手にとってお楽しみください。(M.F)

## 「花・風景：モネと現代日本のアーティストたち：大巻伸嗣、蜷川実花、名知聡子」展　アーティスト・トーク　2009.7.4

「花・風景：モネと現代日本のアーティストたち：大巻伸嗣、蜷川実花、名知聡子」展の出品作家である大巻伸嗣さん、蜷川実花さん、名知聡子さんお招きして、本展の企画者である桜井館長を進行役に、今回の展覧会の企画趣旨についての感想、ご自身の作品のテーマ、今後の活動などについて語っていただきました。その後、トークの場を展覧会場内に移し、実際の作品の前で、大巻さんと名知さんに出品作品の解説をしていただきました。モネの最初の油彩画から晩年までの名画 6 点と、三者三様の絢爛たる花と風景の世界を是非ご体感ください！(A.A)

## CAMKレクチャー・カレッジ「クロード・モネと熊本市現代美術館 花・風景物語」　2009.7.5

「花・風景展 モネと現代日本のアーティストたち：大巻伸嗣、蜷川実花、名知聡子」展の企画者である熊本市現代美術館長、桜井武が本展の企画意図についてお話いたしました。現代美術館で現代作家とともに、印象派のクロード・モネの作品を並べて展示するという斬新な企画を実現するまでの困難と醍醐味、モネと 3 名の作家の素晴らしさ、緑豊かな熊本と風景画との関連性など多岐に渡る内容のレクチャーとなりました。(A.A)

## ミュージック・ウェーブNo.019／ストリート・アート・プレックス協働 JAZZ OPEN 2009 The Hearts of Kyusyu2　2009.7.11

九州在住、九州にゆかりのあるジャズ・ミュージシャンを中心に、全国、および海外からの参加者も一堂に会するという、ストリート・アート・プレックス JAZZ OPEN 2009。今年も熊本市の中心街 6 か所でジャズ・ミュージシャンによる演奏が行われました。美術館では 3 組のユニットが出演。ピアノ、サックス、ベース、トロンボーンの、ロマンチックなジャジーな音色がホームギャラリーを包みこんで、心温まる夕べのひとときになりました。(M.O)

## 第五回城下町くまもとゆかた祭　2009.7.18〜19

熊本市中心街で「第五回城下町くまもとゆかた祭」が開催されました。この日、ゆかたを着て街を歩けば特典がいっぱい。美術館でも入場料が半額など、スタッフ、受付、皆でゆかたを着てお出迎えしました。普段とは違うゆかたのお客様でにぎわう会場内では、色とりどりのゆかたの柄が、「花・風景」展の作品に溶け込んで一体となるような空間に。情緒あふれる熊本の素敵な 2 日間になりました。(M.O)

## 記念講演会「アートマネジメント講座」　2009.7.18

『花・風景』展の開催を記念して、慶應義塾大学教授 美山良夫氏をお招きして記念講演会「アートマネジメント講座」を開催いたしました。
アートマネジメントという言葉が生まれた背景や、ヨーロッパやアメリカなど地域ごとによる捉え方の違い、日本におけるアートマネジメントについてなど、実例を交えながら分かりやすくお話しいただきました。
講座終了後の質疑応答では、アートマネジメントによる地域活性化の成功例や、熊本で行われているアートによる町おこしについての質問があがり、活気あふれる講演会となりました。(S.Y)

## 第2回お話し玉手箱LIVE　2009.7.19

「第２回お話し玉手箱 LIVE」が当館ホームギャラリーで開催されました。3 月に引き続き、RKK ラジオで毎週月曜日の夜にお送りしている朗読番組「お話し玉手箱」を LIVE でお届けしました。
今回の朗読は小説「野菊の墓」（伊藤左千夫作）、古典落語「じゅげむ」（川嶋誠作）、絵本「つみきのいえ」（平田研也作）。語り手は RKK アナウンサーの本田史郎さんと福島絵美さんです。当日は「城下町くまもとゆかた祭り」開催中のため、お二人には浴衣で登場していただきました。
その場の情景が目に浮かぶような「野菊の墓」の朗読。『じゅげむ』では、あの有名な早口言葉の部分を、さすがはプロというべき腕前で披露し会場を沸かせました。そして、やわらかでやさしい声で語られた「つみきのいえ」。
「ことば」の力、「こえ」の力の素晴らしさに改めて感じました。(M.F)

## ミュージック・ウェーブNo.020／ストリート・アート・プレックス協働 GREAT COMPOSER MEMORIAL SERIES “J.S バッハ”　2009.7.25

現代美術館ホームギャラリーにて、ストリート・アート・プレックス恒例『バッハメモリアルコンサート』を開催しました。このイベントは、偉大な音楽家の命日にその人物と音楽を楽しんでもらおうというもので、バッハの命日にちなんで名曲が演奏されました。演奏者は、子供から、大人の方までバッハが大好きな方々、そしてプロのチェロリスト、有泉芳史さんです。曲の情景やバッハの息遣いが伝わってくるような臨場感あふれる素敵なコンサートになりました (M.O)

## ファミリー・ツアー　2009.7.26

「花・風景」展のファミリー・ツアーを行いました。梅雨で天候がすぐれない中、お休みもなく、無事お申し込みいただいた皆さん全員にご参加いただきました。今回のツアーには、以前プレママツアーに参加して、お子さんが生まれたので、またファミリー・ツアーに申し込みました、という方もいらっしゃり、たいへん嬉しいかぎりです。今回は、特に大巻さんのお部屋が大人気。まるで本物のお花をさわるように、やさしく床のお花をなでているお友達の姿がとっても印象的でした。また、どうぞ、みなさんで美術館にいらしてくださいね。(A.S)

## 渡辺順子講演会「心と心を結ぶ 布の絵本」2009.7.27

「心と心を結ぶ 布の絵本」と題して、布絵本づくりの第一人者、渡辺順子さんにお話いただきました。指を使ったり言葉を反復したり五感を使って楽しむことができる布絵本の特長を、ご自分で制作された布絵本を実際に広げながらの丁寧な説明に、参加者から「なるほど〜」という声が聞こえてくるなど、終始あたたかい雰囲気に包まれた講演会になりました。講演会終了後は当館の布絵本ボランティアと意見交換を行い、「とても素敵なタペストリーですね」という先生の感想にとても嬉しそうだった布絵本ボランティアの皆さんが印象的でした。(E.Z)

## 明後日朝顔プロジェクト2009

アーティスト日比野克彦の発案で行われているアートプロジェクト「明後日朝顔プロジェクト」は、今年で 7 年目です。
HIGO BY HIBINO 展開催の年から、当館で明後日朝顔という名の朝顔を育て始めて、今年で 3 年目となります。
朝顔は、種を作り次の年へ生命をつないでいく植物であるため、共に継続することに意義のある当プロジェクト。2009 年当館では、木の砂場のあるキッズサロンから、窓越しに朝顔カーテンを見ることができるように育てられます。また、市内では美術館の他に河原町商屋街でも 2 年目の育成がされます。
今年は、蔓も伸び悩んで遅咲きではありますが、花をつけて種ができる様子を観察しながらご鑑賞ください。(M.H)

# ART de GYAN!

アート・ド・ギャン

熊本弁で「アート、どう?」の意です

## すずほとバーバのコラボ展

**2009.7.12〜31　clover art galleryよつばんち**
熊本市河原町2　TEL096-354-1007

障害者の創作活動を支援する取り組みに関心が高まる中、ギャラリー「よつばんち」では、市内小学校の特別支援学級に通う冨田涼帆さんと、祖母下田孝子さんの小さな作品展が開催された。会場には、涼帆さんが感じたこと、家族との出来事、など日々を綴った絵に、下田さんが布でデコレーションを施す、愛情に満ちた心温まる作品が並ぶ。独学で習得したという下田さんのパッチワーク作品は、非常に多彩でその細かさに目を見張るものがあり、クリエイティブな才能が涼帆さんに受け継がれているのを感じた。現在、涼帆さんの独創性あふれる作品は、商品パッケージに利用されるなど、今後も様々なシーンでの活用が期待される。涼帆さんのように輝くたくさんの才能が、熊本から大きく育ってほしいと思った。(M.O)

アート・ド・ギャン

## 第28回　熊日新人書道展

**2009.6.23−6.28　熊本県立美術館　分館**
熊本市千葉城町2-18　TEL:096-351-8411

この書道展は若手の発掘と県書道界の発展を目的に、毎年開催されている。今年は、280点の応募があり、特選15点、準特選70点、秀作89点が県書道連盟役員によって選ばれました。
会場は、漢字の行草書体や、近代詩文書に、かなの和歌など多彩で個性的な表現が見られた。特に、よく練り上げられた臨書作品は書風の巾も広く、表現に力強さも見られ新鮮であった。(S.K)

## SoDA KIDS展

**2009.7.14−7.19　崇城大学ギャラリー**
熊本市花畑町10-25　TEL:096-323-1158

崇城大学に芸術学部が出来て10年。卒業後、プロとして歩みはじめる作家の姿も徐々に見かけるようになってきた。その中から、主に九州で活動する洋画、日本画、絵画、彫刻卒業生8名による展覧会「SoDA KIDS」展が行われた。洋画の上野洋嗣の細密な風景描写、森英顕の木彫も目をひくが、中園ゆう子の日本画作品は、作者が学生時代に身につけた力を余すところなく発揮した、若々しい秀作である。エゴン・シーレの《エディット・シーレの肖像》を思わせる、画面の中心に配した自画像と、緊密に構成された背景の上に、表情豊かなマチエールが追求されている。この作品は、おそらく今後作者が「作家」として歩み始める上で、常に自分を初心に立ち返らせる原点となっていくだろう。描かれた自画像の瞳からは、そんな強く爽やかな決意が伝わってくるようだ。(A.S)

## 池永久美子 40周年記念作品展　山の世界

**2009.6.23−7.5　ギャラリーカフェトト**
熊本市上通町5-46 上通りイーストンビル3F　TEL:096-352-7156

池永久美子さんの40周年記念作品展が開催。山の魅力を表現したいという思いが続けてこられた原動力というだけあって、山や樹木に対する愛情があふれた作品展となっていた。「これからはちょっとわがままになろうと思っているんです」とにこやかにおっしゃっていたが、今までのイメージとは違う色の組み合わせや力が抜けつつも存在感のある線による大樹の作品にその言葉の意味がうかがえて、これからの作品が大いに楽しみだと感じられる展覧会だった。(E.Z)

## 青柳 綾 作品展

**2009.7.11−8.31　NAGASAKI BOOK STORE**
熊本市上通町6番23号　TEL:096-353-0555

熊本出身の画家、青柳綾さんの絵画展。長崎書店では今回が2度目となる。濃い色合いと、丸みを帯びた女性像、日光とお水を十分に浴びて育ったような熱帯系の植物がとても魅力的だ。南国を連想させる絵を眺めていると、暖かいコーヒーをゆっくり飲みたくなる。そんな心地よい雰囲気がどの作品からも感じられた。最近は拠点を東京に移し、日々制作活動に打ち込んでいるそうだ。(C.T)

## 田上允克 絵画展　2009.07.18−8.16　GALLERLY KOEN

熊本市上林町1-28-15 上通センタービル1F奥　TEL:096-323-9118

GALLERLY KOENと島田美術館で同時開催されている、1944年山口県生まれの作家、田上允克氏の個展。30歳を手前に絵を始めてから30有余年、1日に数枚描くという作品は既に3万枚を数える。曖みなく引かれたラインは奔放な潔さを持ち、明るく鮮烈な色彩には一片の揺らしさも感じられない。力強く、どこかあっけらかんとした風情は、不思議と見る者の心を落ち着かせる。GALLERLY KOENのオーナーに語った「誰でも描けるような絵を描きたい」という言葉からは、日常に根づいた信仰的なひたむきさが感じられ、この作家の制作スタンスをよく表している。(S.Y)

# Visitor's Letter

来館者のみなさんからのメッセージ

アンケートに寄せられた感想
(抜粋)を紹介いたします。

## 井上雄彦展　最後のマンガ展　重版〈熊本版〉

●感動で思わず涙が出てきそうだった。「本当にそこにその人物が生きている」と思った。(10代、女性、熊本県)
●「マンガ展」というより「空間アート」という感じだった。歩を進めるごとに引き込まれる作品、構成、演出は圧巻。(福岡市、20代、女性)
●井上雄彦さんの作品を大変よく理解した上での展示だと強く感じた。作品自体も、展示空間もすべてを楽しめました。展示作品の角度等、細部にわたり展示の気配りを感じた。(20代、女性、熊本市内)
●とても工夫されていて力の入れ具合が良かった。ラストで2人が浜辺を歩いて去っていくところが一緒に体験できたので素晴らしいと思いました。(砂が敷いてあるのが良かった。いいアイデアだと思います。)人が多かったけど、空間がゆったりとしていたので、さほど窮屈ではなかった。(そういう風には感じなかった。)のが良かった点だと思います。(20代、女性、熊本県)
●作者の圧倒的な画力を間近で見ることができてよかったです。喜怒哀楽、すべてが表現されていたように思った。(30代、男性、東京都)
●機会がなかったので来たことがありませんでしたが、いいものはいいということや角度や見方を変えるだけで大きく変わるというのが分かりました。(30代、男性、熊本市内)
●今回の展覧会は素晴らしかったです。感動しました。マンガの域を越えている。この催しが熊本で開催されたことがまた素晴らしいと思いました。(40代、女性、熊本市内)
●すごく感動しました。(子供を抱いた母親の優しい顔、子供の健やかな顔)マンガ展ということで、どういうものかと思っていましたが、展覧会場がいろいろなバリエーションで楽しめました。(50代、女性、熊本市内)

## 花・風景展

●大巻伸嗣氏の作品にはすごくびっくりした。子供に返ったようにまだ踏まれていない花を探して踏みつけてしまいました。視覚だけではなく、実際に体感できるのはとてもよいと思う。モネと現代絵画、写真、インスタレーションのコラボは大変斬新でユニーク、おもしろい企画だと思いました。(50代、女性、横浜市)
●色鮮やかできれいな絵や写真、美しいものをみたい、みせたいと思う作者、私たちの気持ちは同じだと感じました。(50代、女性、熊本市内)
●一つ一つの作品がきれいでおもしろかった。迫力があった。(20代、女性、熊本県)

## 今田淳子展

●なんだか癒されました。美術館の入り口に、ぞうのモコモコがあってびっくりした。(女性、熊本県)

## 編集後記

「花・風景」展では、会場にモネの作品が6点も出品されております。毎日モネをみるたびに新しい発見があり、その豊かな表情に驚かされます。夏休みの宿題も出ているようで、多くの小中学生が会場に足を運んでくれましたが、彼らの深いところにしずかにひっそりとこの印象が残っていくことを考えると、なんだかどきどきします。

編集長　冨澤治子

夏はイベントがもりだくさんですね。先日のゆかた祭りでは、多くのゆかたを着たお客さんが来場され、会場内はゆかたと作品が一体となって、幻想的な空間を作っていました。思わぬコラボレーションに、スタッフ皆で感激、新たな楽しみ方を見出した一日でした。

担当　大岩みゆき

●発行元／ART KISS LETTER　アート・キッス・レター Vol.43　2009年9月発行(秋号)　◎無料◎
●発行人／桜井　武　編集長／冨澤　治子　担当／大岩　みゆき
●デザイン／(有)松永　壮デザイン事務所　●印刷／シモダ印刷
●発行／熊本市現代美術館　〒860-0845熊本市上通町2-3 TEL.096-278-7500 FAX.096-359-7892

●執筆者一覧
＊ギャラリー取材原稿の文末にイニシャルにて記載しております。

美城晨山
Syozan Kaneshiro (書道家)
森山淡草
Tanso Moriyama (書道家)
桜井　武
Takeshi Sakurai(熊本市現代美術館館長)
本田代志子
Yoshiko Honda(熊本市現代美術館主任学芸員)
藏座江美
Emi Zoza(熊本市現代美術館学芸員)
冨澤治子
Haruko Tomisawa(熊本市現代美術館学芸員)
坂本鶴子
Akiko Sakamoto(熊本市現代美術館学芸員)
芦田彩蕣
Aki Ashida(熊本市現代美術館学芸員)
矢加部　咲
Saki Yakabe(熊本市現代美術館学芸アシスタント)
大岩みゆき
Miyuki Oiwa(熊本市現代美術館学芸アシスタント)
藤本真帆
Maho Fujimoto(熊本市現代美術館学芸アシスタント)
高橋知江
Chie Takahashi(熊本市現代美術館学芸アシスタント)
杉谷和泉
Izumi Sugitani(熊本市現代美術館主任主事)
橋本貴紀子
Makko Hashimoto(熊本市現代美術館主事)

# WORLD NEWS

## 第53回ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)
## 2009.6.7～11.22

今回は総合ディレクターのダニエル・バーンバウムのもと、「世界を構築する」とのテーマで、史上最多の 77 カ国の参加で幕開けをした。オープニングで発表された今年のパビリオン賞は、ブルース・ナウマンを取り上げたアメリカ館、金獅子賞はカフェをデザインしたトビアス・レーベルガー、銀獅子賞はナタリー・ユールベリが巨大な植物の造形とクレイアニメの作品で賞を得た。レーベルガーの作品は（写真1）、白黒ストライプが縦横無尽に埋め尽くされ、鎮や蛍光色の椅子がアクセントとなり、一瞬その空間を把握できない戸惑いを覚えさせるが、開放的なひとときも楽しめそうなカフェである。

今年の日本館のコミッショナーは南嶌宏氏、出品作家はやなぎみわ氏。建物外部が黒いテントで覆われ、会場内は新作の「Windswept Women: 老少女劇団」が展示された。力強く大地を踏みしめる女性は、豊かな乳房、激しい風に揺れる髪、肉体と意思のエネルギーが一枚の写真のなかに凝縮されており、デコラティブな黒の額縁がひとつひとつの命の存在を包みこむかのような展示であった。（写真 2）

国別パビリオンでは、イギリス館のスティーブ・マックィーンが人のいない冬のジャルディーニ会場を撮影した映像作品や、オランダ館のフィオナ・タンの映像などが印象に残った。また自国アーティストを紹介するという出身国の枠組みを外した国も見られ、今後、様々な試みが展開されていく兆しといえるだろう。

1

2

3

一方のアルセナーレ会場では、多様で大規模なインスタレーションが展開されていた。アレクサンドラ・ミアの作品《ベネチア》では、通常の観光名所の絵葉書にはその都市の名前が記されるが、この作品は他都市の写真に「ベネチア」と記され、その意外性のある写真との組み合わせは素直に面白く、多くの来場者は段ボールに山積みされた絵葉書を楽しんで持ち帰っていた。（写真 3）

今回のビエンナーレでは、個々の作品として興味深いものが多く、展覧会の全体的なまとまりが見られたが、時代を反映していると強く意識することは少なかった。ベネチアは今回で六回目となるが印象に残っているのは、世紀の転換期にあたる1999年の展覧会であった。それから十年後の今、そのような対比でみると、現代の姿が浮き彫りになっているといえるのかもしれない。

また同時期にベネチアで開催されているモナ・ハトゥムの「インテリア・ランドスケープ」展（～ 9.20）は、ミュージアムの歴史的な室内空間と現代美術の関係性を際立せる優れた展覧会であった。日常生活で見慣れたものが異空間に置かれることで、新鮮な驚きとともに、自らの文脈と、何気ない眼差しの中にある特定の視点が根付いていることに気づかされる体験となった。（Y.H）

# Suitottō Kumamoto

［スイトット・クマモト］

## 熊本の華人インタビュー

＊いける＝花を生かす、ことと考え、ここでは「生ける」と表記します。（インタビュアー・構成：蔵座江美）

昨年度の華人展から新たにご参加くださった「現代池坊」、「宏道流」、「嵯峨御流」の 3 流派をご紹介します。
「現代池坊」は、流派の諸事情のため改めてご紹介させていただく予定です。

### 【宏道流編】

いけばな歴 60 年とおっしゃる武藤魁月先生がお花を始められたきっかけは、いけばながやりたくてもできなかったお父様の意思を継いでとのこと。

その先生にいけばなを続けてきてよかった点をお伺いしたところ、「道を歩いていても走っていても、季節の草木、花に目がいってしまう自分の視点でしょうか」と静かにでもきっぱりとおっしゃるところに、いけばなを中心に毎日を送られていることがうかがえて、継続の力が強く感じられた。先生のお好きなお花は「やさしい野生のお花」とのことだったが、一見そのたたずまいからは想像できない言葉の強さには、横の濃い緑がぴったりだと思った。

熊本の華人展 vol.5 作品

### 【嵯峨御流編】

笑顔が素敵な田中慧州先生にお話をお伺いした際に印象的だったのが、「出会い」という言葉が何度も出てきたことだった。「先生との出会いが今の私の財産です」、「花が人に語りかけてくれるようで、その出会いが日々の生活を楽しませてくれるところがいけばなをやっている喜びでしょうか」という言葉から本当にお花が好きでいけばなを続けていらっしゃることが伝わってきた。「自然の移ろいを子どもたちにはしっかり感じてほしい」とおっしゃる先生のお好きな花は、白やグリーンの淡い色の花とのことだったが、その優しい笑顔は野山に咲く白い鉄砲ユリのようだと思った。

熊本の華人展 vol.5 作品